

けに質の高い意見交換が展開され、看護師としての患者への思いが伝わってきました。この演習から、どうしても病院内中心に偏りがちな看護の視点を少し広め、社会資源の活用や表出されていない患者の社会心理的背景にも目を向けることの大切さを学習して頂けたことと思います。

今回の講演内容が少しでも皆様の心に残り、領

域を超えた看護実践やフィールド研究に活用して頂けることを期待しております。

本研究会が来年からは「看護実践学会」として発展されるということから、ますます実践的で質の高い看護のあり方を会員相互で協力しながら探求していくよう、微力ながら協力して参りたいと思います。

緩和ケアにおける看護師の役割

北野 真実

(石川県済生会金沢病院緩和ケア病棟)

平成17年12月3日土曜日の午後、みぞれの降る寒い日でしたが、緩和ケアに関心のある看護師の方々が参加してくださり、大変ありがたく思いました。

今回のセミナーでは、以下の6点を中心に講演させていただきました。

- 1 ホスピス・緩和ケアの歴史、由来
- 2 日本のホスピス・緩和ケア病棟の現状
- 3 “全国ホスピス・緩和ケア協会看護職員教育プログラム”の紹介
- 4 緩和ケアにおける看護師の役割
 - 1) 症状のアセスメント(痛みの発生機序、痛みの種類)
 - 2) 症状緩和の看護技術
 - ① ゲートコントロール説に基づくマッサージ
 - ② リンパ浮腫マッサージ療法に関する文献、ビデオの紹介
 - ③ 体位変換の技術
 - ④ コミュニケーション技術
 - ⑤ 口腔ケア(当病棟の研究紹介)
 - ⑥ 家族へのケア(9項目と言われている家族のニーズについて)
 - ⑦ エンゼルメイクの紹介:チンカラーの紹

介、エンゼルメイクのポイント

などを説明。

- 5 緩和ケアにおける倫理的諸問題について(特にセデーションに関する看護のポイント、家族のニーズの葛藤について)
- 6 事例検討:日本看護協会“看護者の倫理綱領”を参考資料とし、5に関する事例を紹介し、5つのグループに分かれた。その後各グループで話し合った結果や内容を発表した。

事例検討では、情報の少ない事例に対して、みなさまで看護の方向性を考えていただく貴重な時間になったのではないかと考えています。

まとめて、私が語らせていただいたことは、緩和ケア病棟だから緩和ケアができるのではなく、緩和ケアのマインドや理念を理解している限り、どのような場所であっても看護ができるということです。

セミナー終了後、個人的に質問を受ける機会もあり、緩和ケアに関して多くの看護師の方々とともに考えることができ、とてもうれしく思いました。

このような貴重な経験をさせていただき、感謝いたします。